

2024年度 活動報告

課題背景

【就労状況】逮捕時に無職だった方が多く、女性、再入者の方の無職率はさらに高くなっています

5-3-4図 入所受刑者の就労状況別構成比（男女別、初入者・再入者別）

①

男性



② 女性

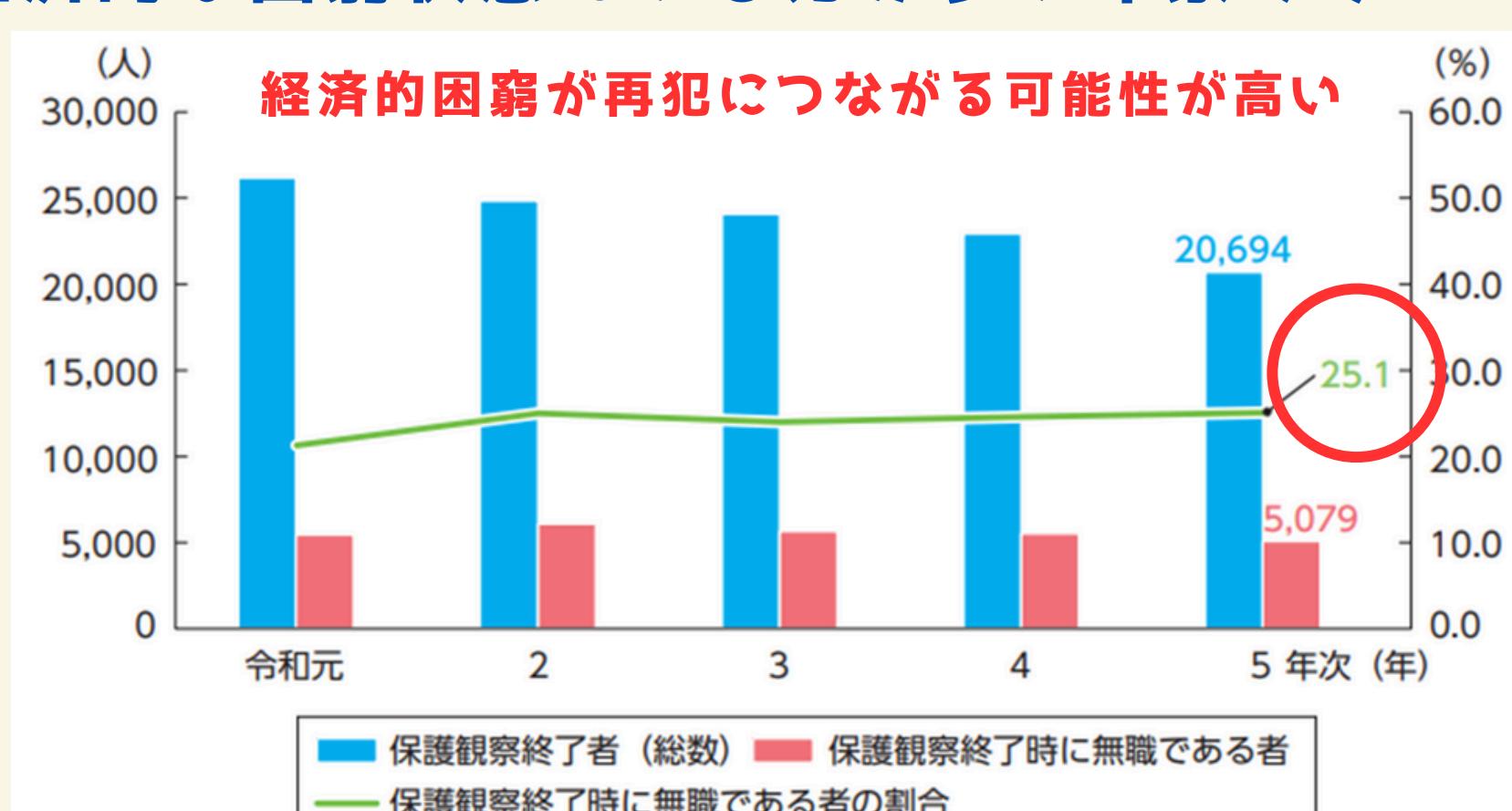


出典：令和6年版 犯罪白書より引用

【保護観察終了時の就労状況】

4人に一人は保護観察終了時には無職

保護観察終了時無職の方は25%にのぼります
経済的な困窮状態にいる方が多い印象です



出典：令和6年版 再犯防止推進白書より引用

6割以上の方が仕事のない状態から孤立していくことが見て取れる (令和5年)

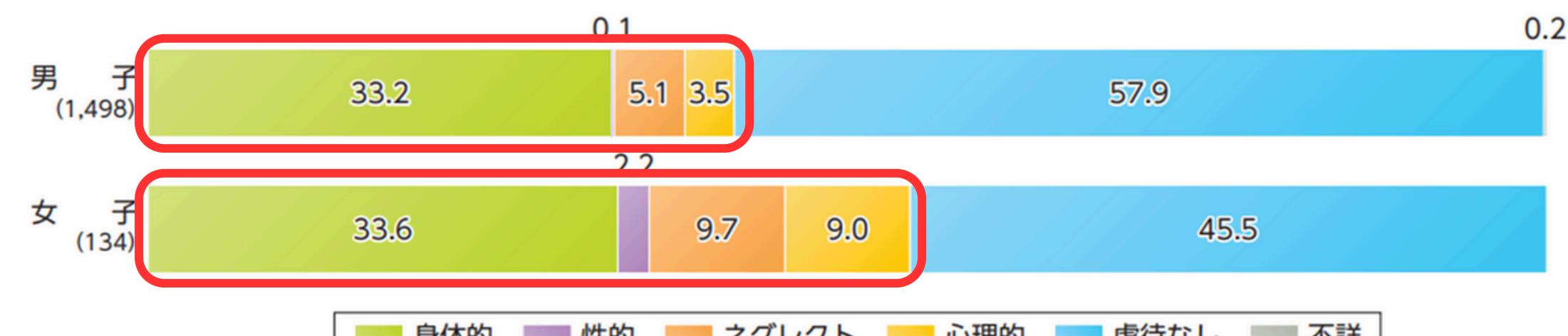
(令和5年)

【被虐待経験】

少年院入院者の男子4割、女子の半数以上が、何らかの被虐待経験があります

3-2-4-8図 少年院入院者の被虐待経験別構成比（男女別）

少年：男子で4割、女子で7割が何らかの虐待を受けている (令和5年)



出典：令和6年版 犯罪白書より引用

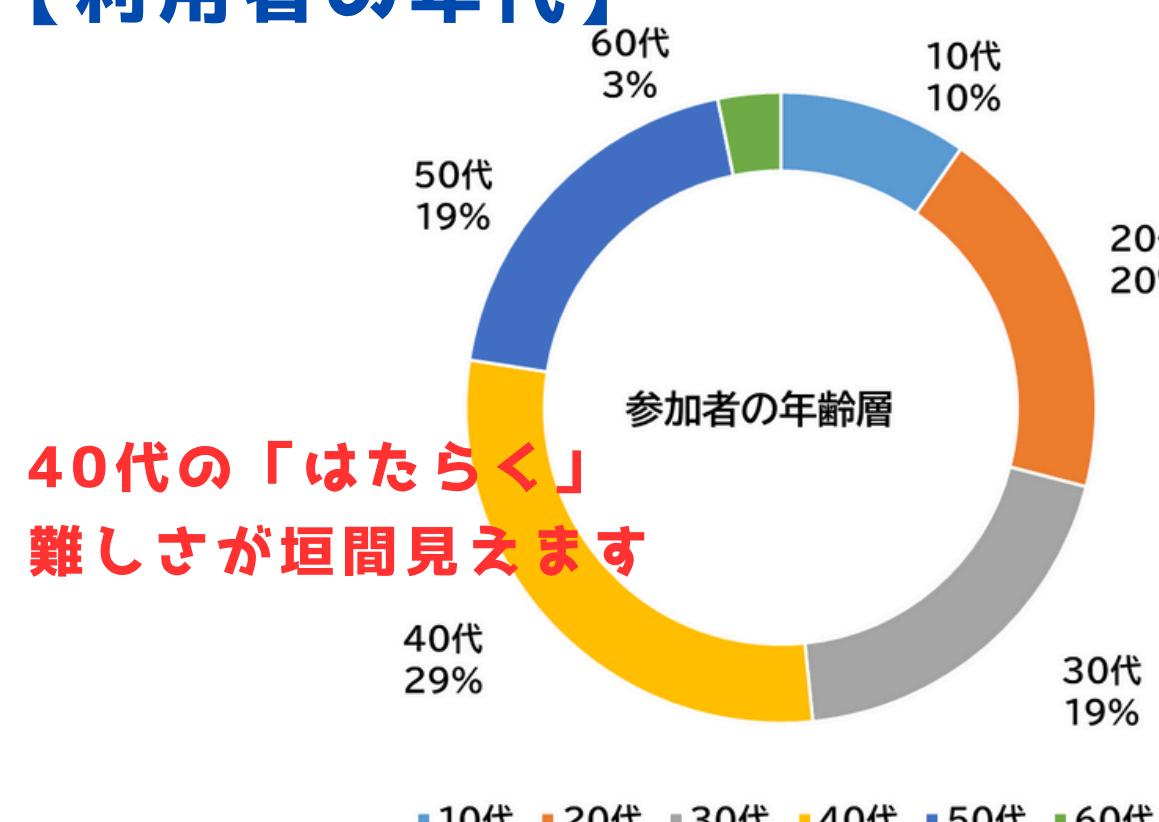
対象者の属性

受講申込み者：31名 受講者数：のべ106名 個別相談対応件数：のべ266件

2025年2月28日現在

利用者アンケートより

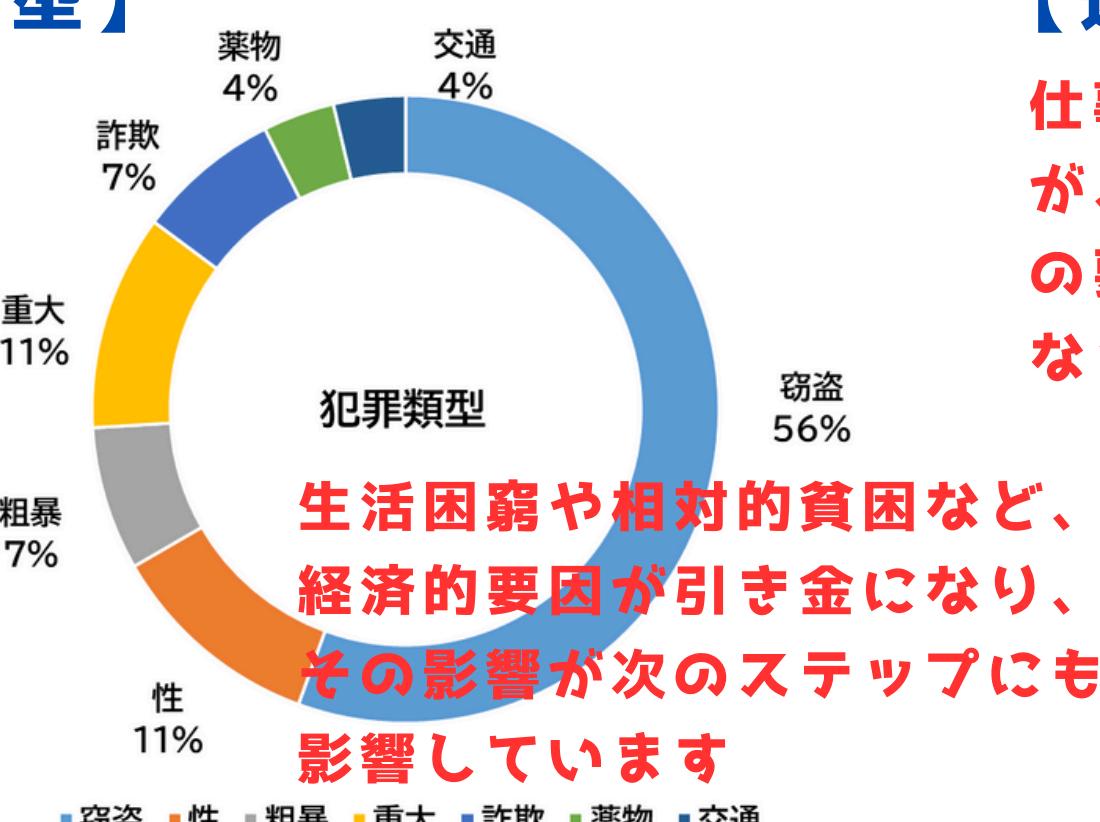
【利用者の年代】



40代の「はたらく」
難しさが垣間見えます

全年齢層にまんべんなく広がっています
20代の社会に出て間もない層と、
40代の就労課題を抱えやすい年齢層の
ボリュームがやや多い印象です

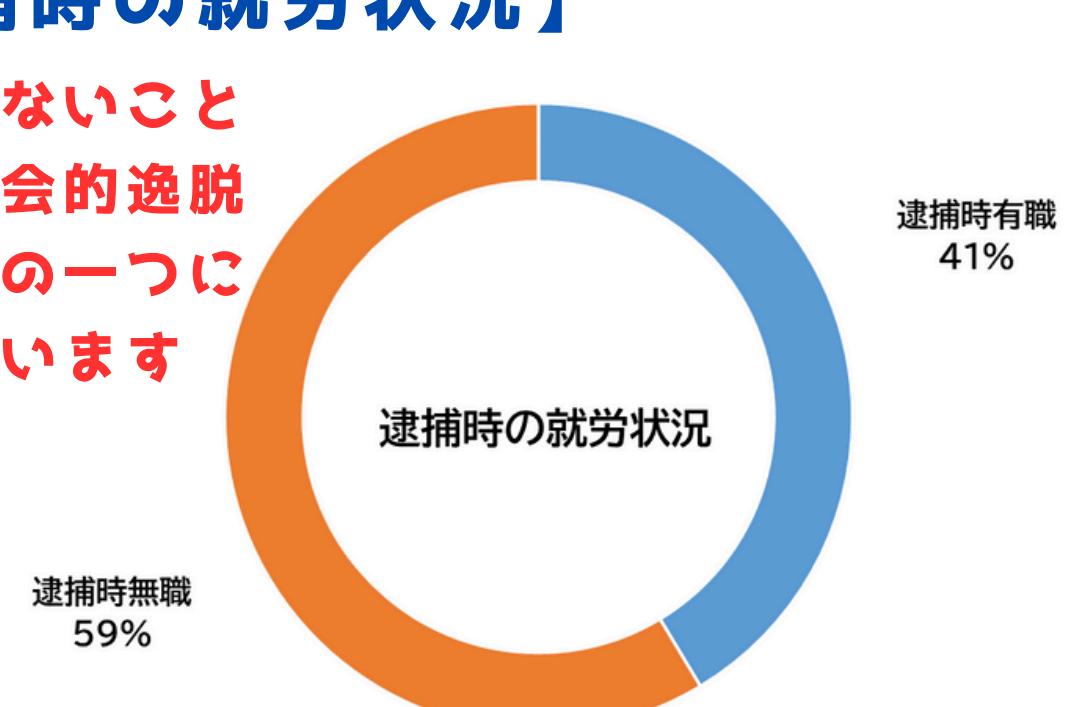
【犯罪類型】



生活困窮や相対的貧困など、
経済的要因が引き金になり、
その影響が次のステップにも
影響しています

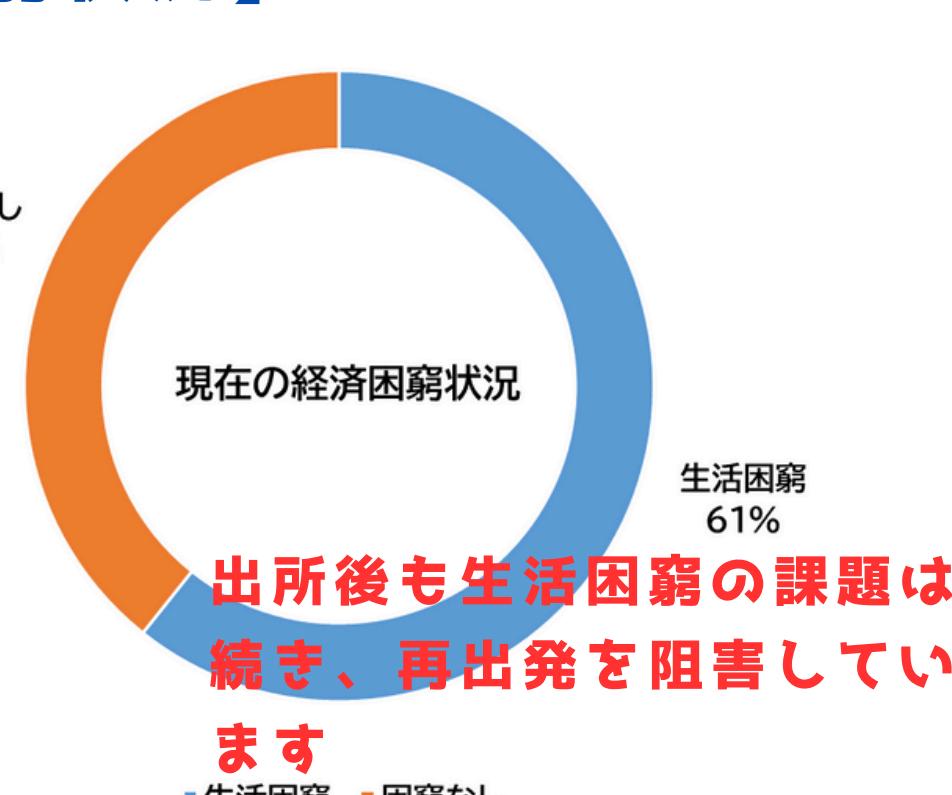
【逮捕時の就労状況】

仕事のないこと
が、社会的逸脱
の要素の一つに
なっています



59%の方が逮捕時に無職でした

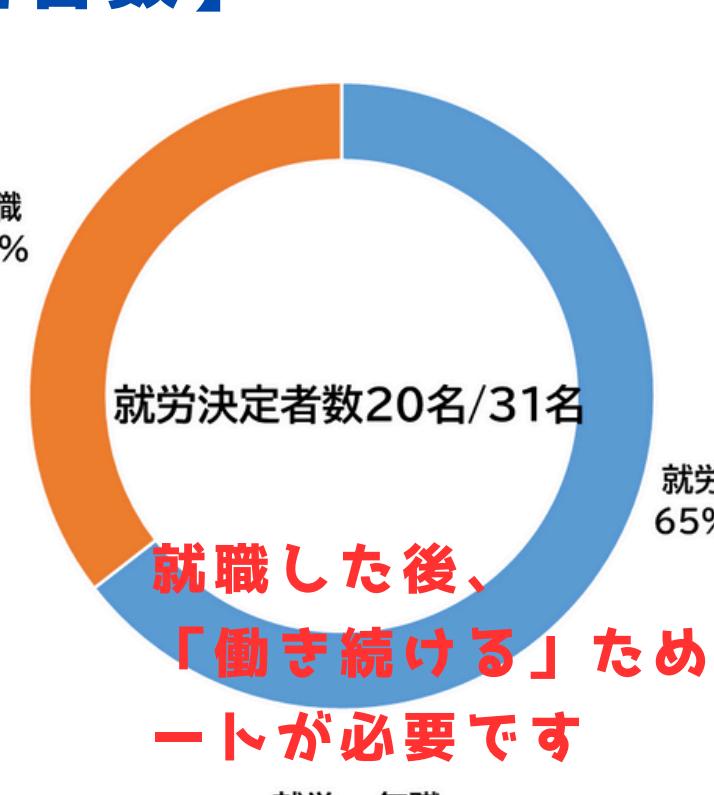
【経済的困窮状況】



出所後も生活困窮の課題は
続き、再出発を阻害して
います

61%の方が出所後も生活困窮の課題
に直面しています

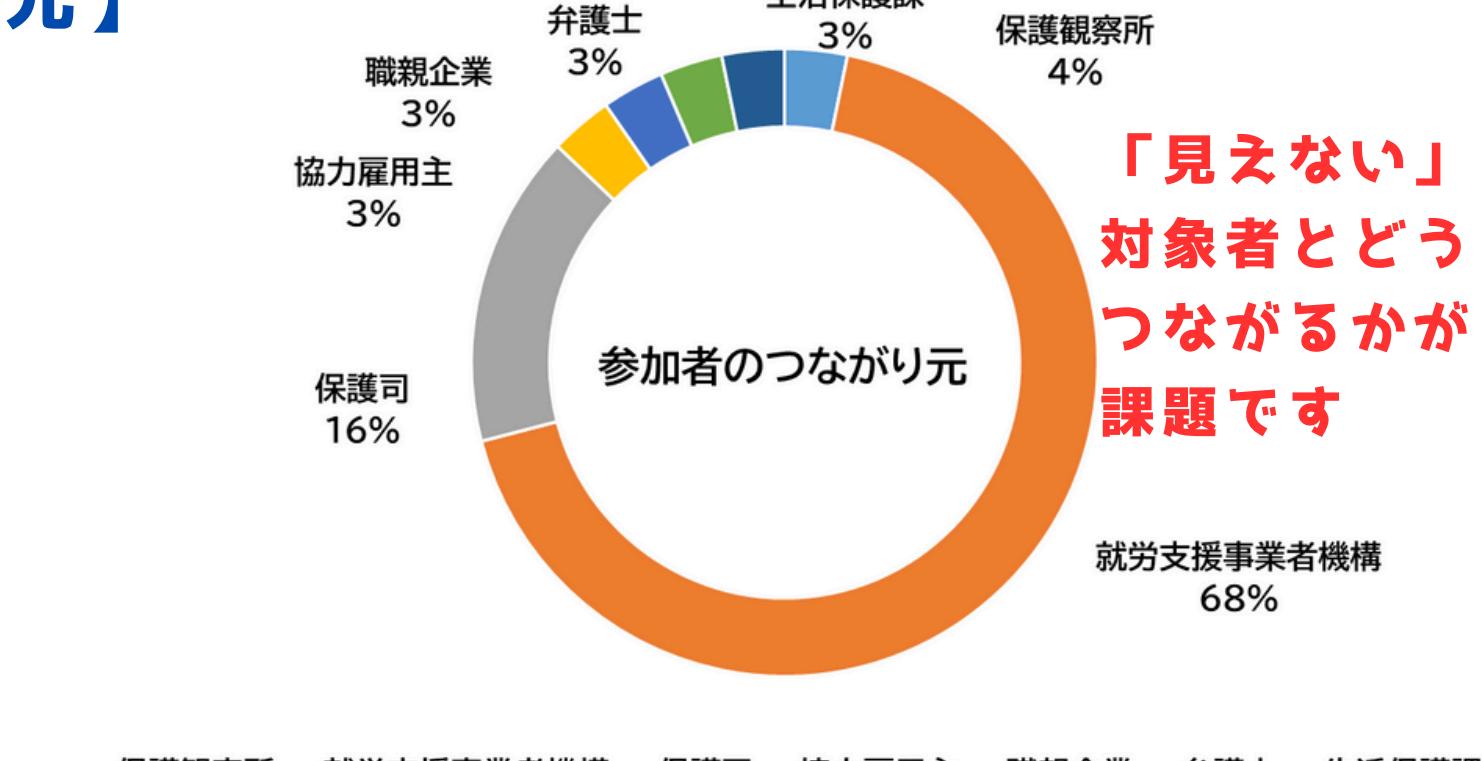
【就労決定者数】



就職した後、
「働き続ける」ためのサポ
ートが必要です

20名、65%が就労、35%が現在も
就職活動中です
就職した後の継続にも、伴走する必
要があります

【参加者のつながり元】



「見えない」
対象者とどう
つながるかが
課題です

多くは就労支援事業者機構からの紹介が多
く、次いで保護司からの紹介と続きます
協力雇用主や職親プロジェクト参加企業か
らの紹介もあります



Webサイトはこちら
<https://retry-miyagi.org/index.html>

Supported by 日本 THE NIPPON
財團 FOUNDATION